
想い

葉隠むつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

想い

【著者名】

葉隱むつ

Z0549E

【あらすじ】

「あなたが、好きだよ」って、言っちゃった。

「あんたが、好きだよ」

緊張も飾り気も初々しさも照れくささもないよう、「そんなのが微塵も表に出ないよう」。自分との戦いを制してあいつとの言葉を口にできたから、私はほんの少しだけ安心した。

髪を耳にかけながらあいつを振り返る。

あんまり予想通りの顔してるから、何だか切なくなってしまって空を見上げた。

満開を少し過ぎたばかりの桜が、早くも役目交代とばかりに数枚宙を舞つている。

「ああ、桜は散る時、たつた一枚きりの花びらだとこんなにもたよらないんだと、ほんやり思う。

肩に引っ掛けた薄桃色のそれをつまんで、そつと手のひらの上にのせた。

私もあんたと同じよ。

私も、タイミングを間違えた。

私の想いを告げるチャンスは、一生来ないはずだったのに。来てはいけなかつたのに。

何を血迷つたか、熱病にかかつたもう一人の私は、別れが怖くて封印したはずの

気持ちを口にしちゃつたんだ。

「な、なあ……」

私は再びあいつを振り返った。そういえば、私の決定的な一言の後、何にもしゃ

べつてなかつたんだ、と、意外に思つ。

私は勝手に時間がだいぶ経過してたと思い込んでたみたいだ。
さて、私も言わなくちゃ。

後には、これしか残されてないから。

「お前、今確かに……」

「あははは。何か勢いで言つちやつたよー!」

私はあいつに一言もしゃべつてほしくなくて、言おうと思つてたことや頭に思い

浮かんだことを片つ端から口にしていった。

「こうなつたら言つちやつたけど、実はさあ、あんたが私の初恋なのよ。初恋を小

学校から高校卒業までずっと守り続けてきたわけ。何か自分でもありえないと思

うんだけど、まああいつたものはじょづがないよねー参つたなあ。

今までずっと

我慢してきたのに、私…………私、最後の最後で我慢できなかつたよ。大学、遠

くへ行つちゃうもんね。しばらく会えなくなるつて考えたら、いてもたつてもいられなくなつて、つー…………

桜に花粉はあるのは当たり前だ。ところとは、私が今泣いてるのは桜の花粉のせいなんだ。きっとそうだ。それ以外に何の理由があるんだ?私は桜のせい泣いたんだ。

別れの季節が切なくて泣いたんだ。

絶対、まかり間違つても、失恋した痛みだと、こいつに嫌われたつて痛感して

るからとか、そんなちやちなことじやないんだ。

ああ、もう言つことは言つたし、とつとと逃げないと。

「待てよ

突然、後ろから抱きすくめられて、身動きがとれなくなる。

背中と耳元に、それぞれ体温と息遣いを感じた。

そうだ。ここは昔から「」やつて変に氣を使う癖があつたから、

今だつていつ

ものように接してくれてるんだ。

なんて、ムカつくくらい憎たらしいんだ。

今、私の胸の中で、正反対の一いつの色がせめぎあつてゐる。

これ以上くつついているのが怖くなつたとき。

「俺だつて、長い間初恋を大事にしてきたから、そこはお前と同じだよ」

よく聞き慣れた声なのに、夢の中の幻かと思った。

でも、この声は紛れもないあいつの声だつた。

私の耳元で、確實に発される音。

嫌いだけど完全には嫌いになれないあいつの声。

幼馴染みの声。

この瞬間、もう何もいらないくて思つた。

それは、たつたひとつのものを手に入れることができたから。

(後書き)

とっても短いお話を（こきおいで）書いてみました。

オチがほとんどないようなもの、というよりか弱すぎますが、こう
いつべタな終わり方にはこれでいいのかなあと思います。これから
も精進したいです。

読んで下さった方、本当にありがとうございました。

私の作品は未熟すぎますが、それでも読んでいただけたのなら嬉し
いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0549e/>

想い

2010年12月30日04時16分発行